



最上川河口 ごみ定点調査結果について

山形県庄内総合支庁環境課

内容目次

- 調査の背景・必要性(目的)
- 調査の方法等
- 調査結果
- 考 察
 - 調査結果から
 - 改善に関して(今後の対応等)

調査の背景

- 国内の海辺の漂着物量の概算
⇒ 約15万トン(財団法人環日本海環境協カセンター試算)
- 【庄内地域の状況】
 - ・ 活発な回収活動
平成18年度130団体が約75t回収
 - ・ NPO、住民、行政との連携

減少しない
漂着ごみ

➡

・回収活動の活発化
 ・発生抑制への取組み

飛島クリーンアップ作戦



【実施状況】

- ・平成13年から継続
- ・NPOが事務局
- ・平成19年は約350名が参加し、2.6tを回収

【課題】

- ・過疎と高齢化
- ・険しい地形
- ・ごみの量が多い
- ・処理が困難なごみ



クリーンアップ・ザ・庄内海岸



【実施状況】

- ・庄内海岸の6会場(海岸、河口、砂防林)で開催
- ・平成19年は、870名が参加し、6.66tを回収




調査の必要性

【発生源】

「個数比で約6~8割が
陸域における生活ごみ」



ICC調査結果 (JEAN) による

大部分が河川を通じて流出

実態把握が不十分

最上川における調査事例

■ 最上川2003ゴミマップ

調査方法：水辺の散乱ゴミの指標評価手法
実施主体：国土交通省山形河川国道事務所 山形県土木部河川砂防課
美しい山形・最上川フォーラム NPO法人パートナーシップオフィス
発行：NPO法人パートナーシップオフィス

■ 最上川2005ゴミマップ

調査方法：水辺の散乱ゴミの指標評価手法
実施主体：国土交通省山形河川国道・酒田河川国道・新庄河川各事務所
山形県土木部河川砂防課 NPO法人パートナーシップオフィス
発行：NPO法人パートナーシップオフィス

■ 美しい山形クリーンアップキャンペーン

調査方法：国際海岸クリーンアップ (ICC) 調査方式
8月~10月調査期間 (平成15年度から)
実施主体：美しい山形・最上川フォーラム

調査の方法等



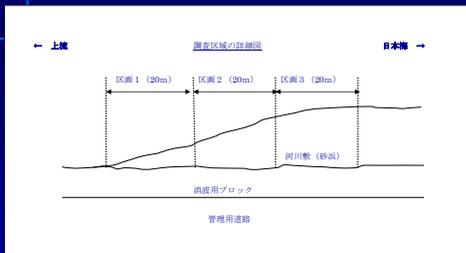
県土の約76%の流域面積を持ち、県人口の約80%が生活する最上川の河口で実施

- 調査期間
平成19年5月~11月 6回
- 調査地点
酒田市 最上川河口から約1km上流右岸
- 調査方法
ICC調査
(個数、かさ容量、重量)

調査場所



調査区域



作業状況



ICC (International Coastal Cleanup)

アメリカの環境NGO「オーシャン・コンサーバンシー」が海のごみ問題に世界規模で取り組むため、1986年から展開している海岸のごみ調査とクリーンアップ活動。

2004年には、88か国から約30万人が参加している。

調査結果一総括表(区画2)一

調査日		かさ容量 (L)	重 量 (kg)	総 個 数
5/16		(130)	(12.28)	(757)
~6/21	I	65	5.64	752
~7/18	II	70	7.66	450
~9/12	III	49	8.38	1,019
~10/12	IV	47	5.39	946
~11/14	V	52	5.53	687

調査結果(品目別) I ~ V 合計



順 位	品 目	個 数	%
1	発泡スチロール破片	1,509	39.2
2	硬質プラスチック破片	687	17.8
3	プラスチックシートや袋の破片	411	10.7
4	食品の包装・容器	245	6.4
5	プラスチック燃えカス	174	4.5
6	吸殻・フィルター	151	3.9
7	ふた・キャップ	133	3.4
8	飲料プラボトル	84	2.2
9	生活雑貨	63	1.6
10	ロープ・ひも	48	1.2
	その他	349	9.1
合 計		3,854	100.0



← ゴミの漂着状況
水位低下時に漂着



回収したゴミ →
食品容器、飲料プラボ
トル、生活雑貨など

地名が記載されたごみ



考察：調査結果から

- ・ 恒常的にごみが流出
- ・ 日常生活から発生したごみがほとんど
- ・ 破片類が非常に多い
(→ 河口に到着するまで長期間)
- ・ 野焼きの燃えカスも上位に
- ・ 最上川の流域全域から流出

回収活動の意義・課題

【意義】	【課題】
<ul style="list-style-type: none"> きれいになる ⇒ 景観、生態系保全、観光資源上の価値が高まる 抑止効果(捨てにくい) 拡散防止 社会貢献(達成感) 環境教育になる 実態を知ってもらう(問題に気づく、モニタリング) 発生抑制に繋がる(生活スタイル、行動) 	<ul style="list-style-type: none"> 回収の労力や負担 ・徒労感(全量は無理、すぐはたまる) 無関心(一部の人だけの取組み) 捨て得? (モラルハザード) 運搬や処分の問題 ・市町村負担の増大 処理困難(塩分・水分) 処分場の逼迫 など 制度的に未整備

参加促進

改善に向けた取組み

回収したごみの処理



【現地】

- ・事前に市町村に依頼
- ・分別方法に従い回収
- ・一般廃棄物のみ
流木、廃家電、タイヤ、漁網・ロープは回収しない
- ・指定場所に集積

【処理の問題】

- ・焼却処分が困難
塩分、水分、砂が付着
→ 焼却炉の劣化
- ・埋めて処分
→ 処分場の逼迫

法律・制度の課題

漂着ごみの発生源は特定できない(多種多様で広域)

【廃掃法】

- ・海岸管理者が土地の清潔保持の努力義務
- ・市町村が、一般廃棄物の処理について包括的責任

【海岸法】

- ・清潔保持の程度は海岸管理者の裁量

【国の取組み】

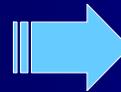
- 海岸の区域により主体に違い
- ・海岸保全区域
一国土交通省(海岸管理者:県)
※補助の要件が厳しい
- ・海岸保全区域外一環境省(市町)

【海洋基本法の施行】

- 19年7月施行
- 第18条(海洋環境の保全等)の中で「海洋環境への廃棄物の排出の防止」を基本的施策として明記

発生抑制のために

- ・海への流出防止の視点
- ・海に流出までに期間



流域全体での取組み
関係者の広範な協力

- ・山形県循環型社会推進計画
- ・ごみゼロやまがた推進県民会議
- ・美しい山形・最上川フォーラム
- ・河川アダプト

美しいやまがたの海推進事業

【国際】

北西太平洋地域 海行動計画

環日本海諸国
NGO・専門家

海外研究機関
・大学等

全国プラットフォーム

地域プラットフォーム

【多様な主体の連携】

- ・NPO・住民
- ・事業者
- ・大学
- ・行政

【取組み分野】

- ・モニタリング調査等の実施
- ・回収・処理
- ・発生抑制
- ・情報共有、情報発信

【県内】

ごみゼロやまがた
推進県民会議

美しい山形・最上川
フォーラム

山羽市内公益の森
づくりを考える会

その他NPO

ご清聴
ありがとう
ございました

山形県ごみ減量化推進キャラクター



愛称: スリムくん